

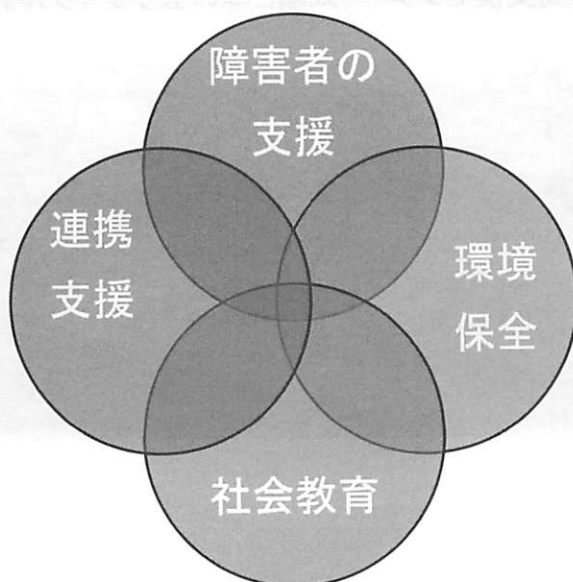
平成28年度 全日本手をつなぐ育成会連合会
全国育成会事業所協議会全国研修大会・岡山県大会

第2分科会 「人も物も活かされる街造りをコンセプトに32年 太陽と緑の会の実践活動」

提案者 NPO法人太陽と緑の会 代表理事 杉浦良



多分野の側面を持つ社会貢献事業



障害者支援の側面

働く場
日中活動の場

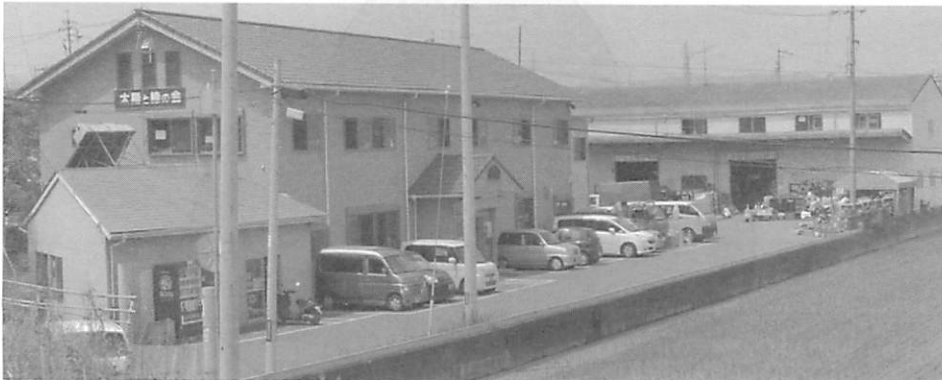
地域活動支援センター
太陽と緑の会リサイクル作業所
(3障害混合)公的助成470万+150万

障害者地域共同作業所
太陽と緑の会月の宮作業所
(3障害混合)公的助成350万

生活の場

太陽と緑の会
月の宮共同生活棟
(3障害混合)
公的助成ゼロの独自事業

太陽と緑の会事務局・作業所兼店舗 地域活動支援センター 太陽と緑の会リサイクル作業所



地域活動支援センター 太陽と緑の会リサイクル作業所

開所

- ・ 午前10時から午後7時
- ・ 昭和59年8月開所

利用者

- ・ 定員19名
- ・ 3障害(身体・知的・精神)混合利用

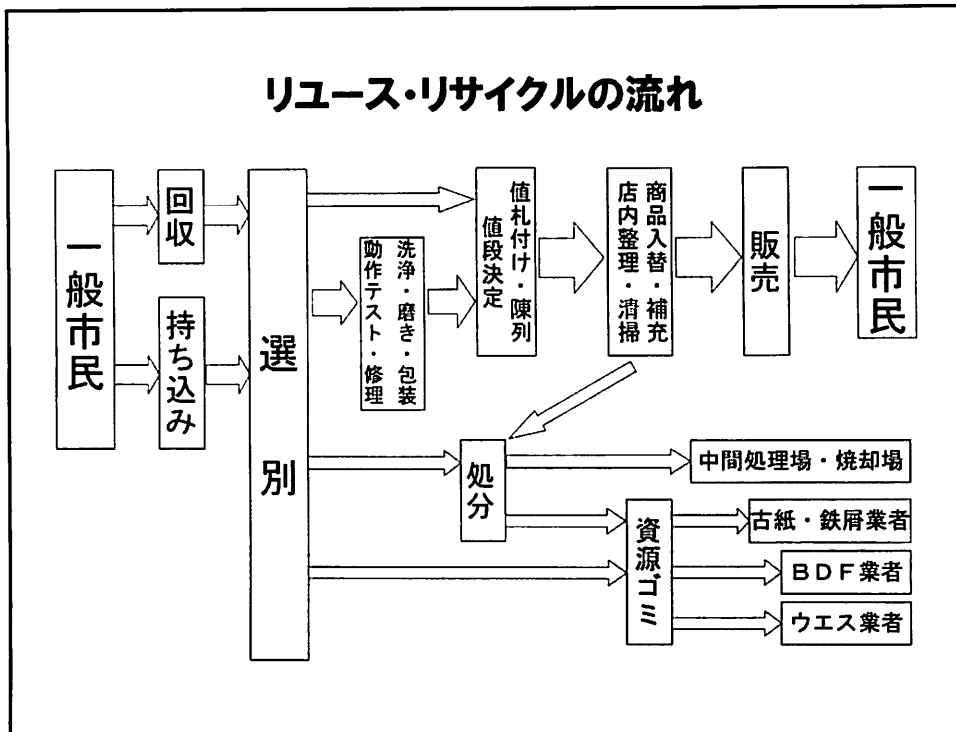
職員体制

- ・ 所長1名
- ・ 指導員1名

環境保全の側面

品物・資源ごみの リユース・リサイク ル

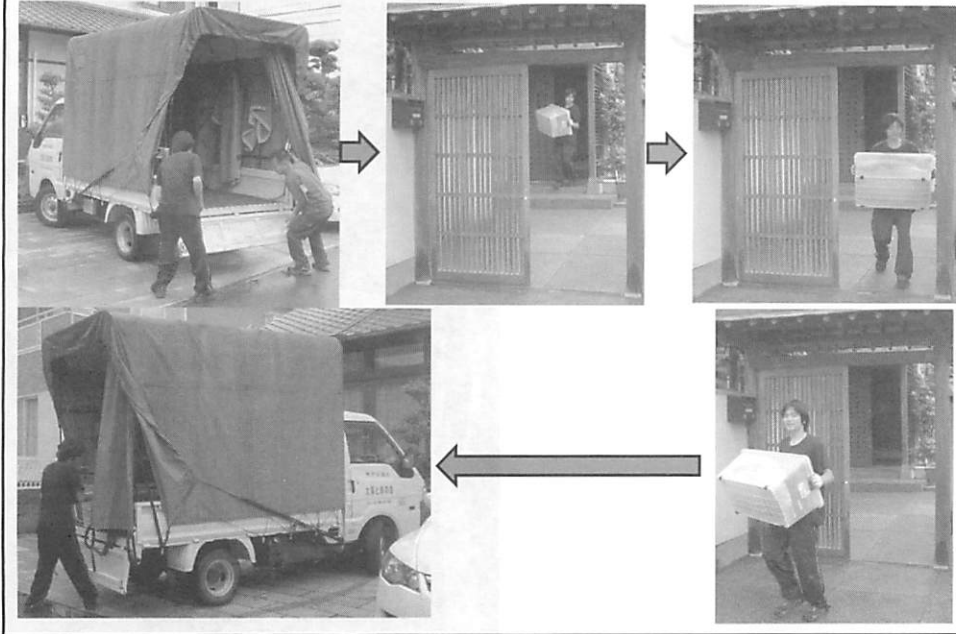
- ・ 年間10,000件、500トンを回収。
うち5分の4はリユース・リサイクル
につなげている。



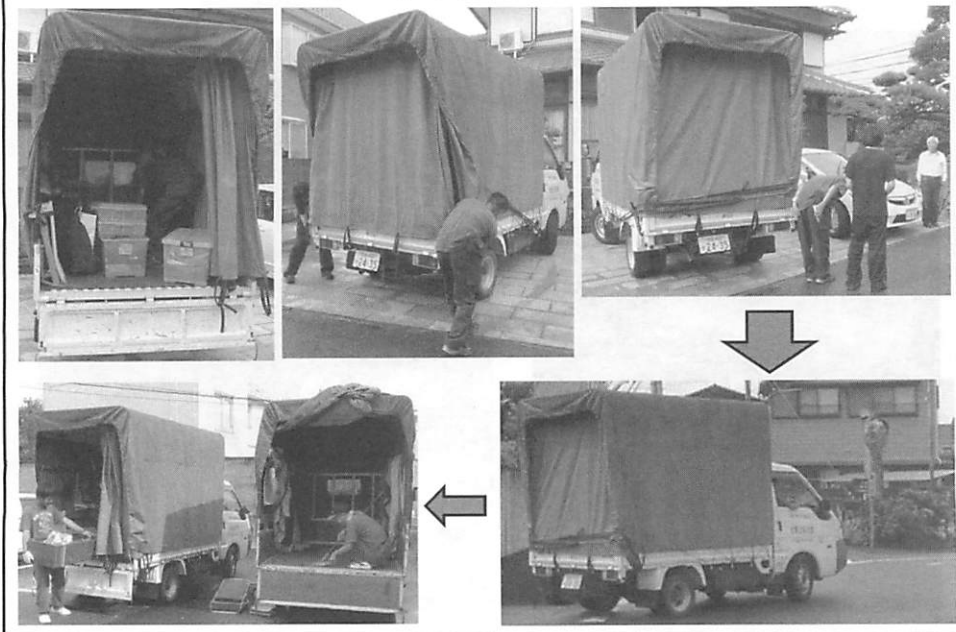
様々なハンディを持ったメンバーの作業内容

- 一般家庭からの品物・資源ごみの回収
- 品物のお持ちこみへの対応
- 品物の仕分け
- リユース品(商品)の洗浄・磨き・包装・
値札つけ・陳列・入替
- 店内整理・清掃
- 接客・レジ・電話対応
- 資源ごみの回収・選別・積込・搬入
- 通うだけで精一杯のメンバーのための内職作業

品物の回収(引き取り) 品物回収



品物の回収(引き取り) 品物回収



回収品の
荷下ろし



クリーニング 包装



専心窓

値札付け

の服業社・尾野



陳列・店内整理



売場・作業場のワックスがけ



窓ふき



メンバーによる電話対応



ハンディを持ったメンバーによる会計



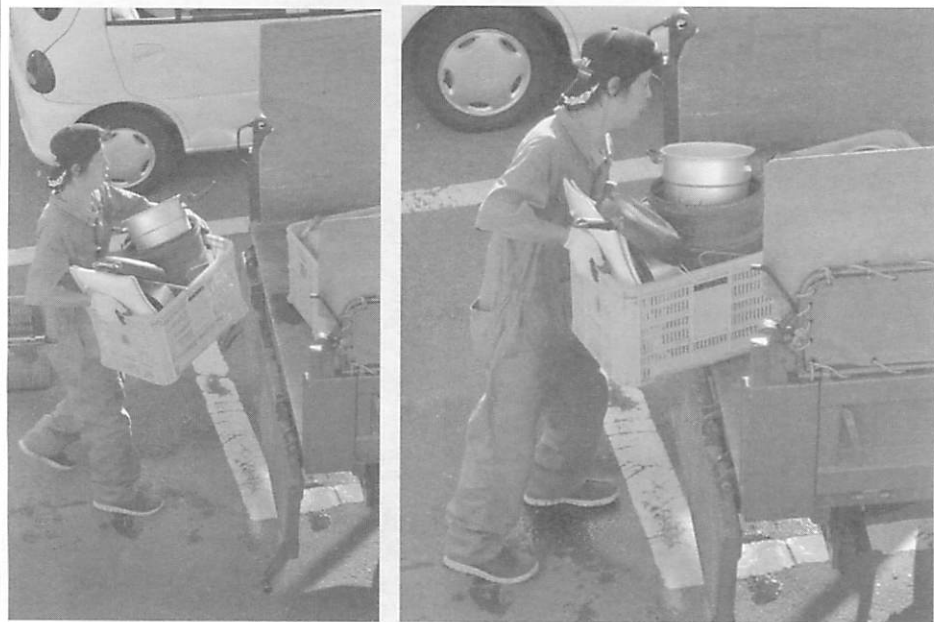
感謝セールでの コーヒーサービス



ご案内から会計まで
メンバーだけで行うタイムセール



資源ごみの積み込み



昼食の準備



昼食は各自片付け



環境保全の側面

CO₂削減の 実践

- ・ 太陽光発電システム(事務局 16.02kw、生活棟6.48kw)、太陽熱温水器(事務局、生活棟、月の宮作業所)の導入(平成10年2月開始。段階的に拡張)
- ・ 自然換気システムの導入によりエアコンなしでも快適に過ごせる空間の創出(平成18年度～)
- ・ ストップ温暖化「一村一品」大作戦 全国大会2008優秀賞
- ・ 平成19年度関西エコオフィス奨励賞



環境保全の側面

廃食油のリユース・リサイクル

- ・ 累計5000リットルのテンプラ廃油を7.5トンの粉石鹼としてリサイクル（平成22年8月終了）
- ・ 累計4657リットルの廃油をBDF化（平成19年度～）

クリーンアップ活動

- ・ 鮎喰川河川敷のクリーンアップ（5月の一斉清掃(平成13年度～) 週1回の定期清掃）
- ・ 第24回みどりの愛護功労者国土交通大臣表彰受賞

河川敷のクリーンアップ



障害者地域共同作業所
太陽と緑の会月の宮作業所



障害者地域共同作業所
月の宮作業所

開所

- ・ 午前9時30分から午後4時
- ・ 平成12年7月開所

利用者

- ・ 定員10名
- ・ 3障害(身体・知的・精神)混合利用

職員体制

- ・ 所長1名
- ・ 非常勤指導員1名

環境保全の側面

自転車のリユース・
リサイクル

・年間1000台の自転車を回収

野菜作り

・トマト、キュウリなど、四季折々の作物を栽培

作業内容

- 自転車リサイクル(自転車回収、パーツ交換、磨き、ワックス掛け、カギ・ベル取付、販売、解体)
- 野菜作り(植え付け、草刈り、水やり、収穫)
- 昼食づくり

自転車の回収



リユース自転車のパーツ交換作業



リユース自転車の整備



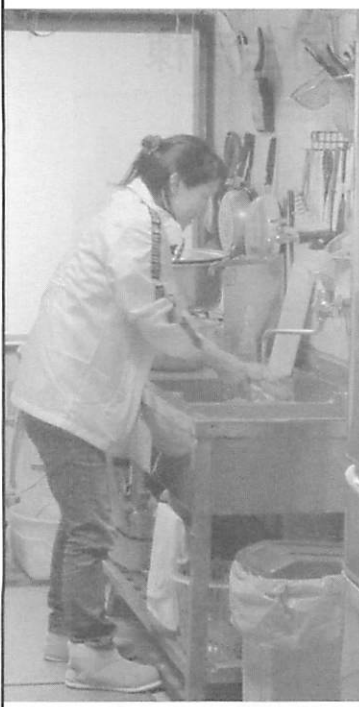
リユース自転車の磨き・シールはがし



販売活動 自転車バザー



昼食づくり



機関誌の作成(丁合、綴じ、封筒入れ)



太陽と緑の会 月の宮共同生活棟

生活棟で使用する電力を太陽光で自給(使用電力の約2倍を発電)
温水は風呂・炊事に活用



社会教育の側面

体験ボランティア

- ・ 太陽と緑の会の日常活動の体験プログラム。環境、福祉など幅広く学ぶ。19回の開催で計258人が参加。

見学・体験実習

- ・ 県内の小中高生、大学生、社会人の体験学習、研修、見学の受入。年間15件(100人)以上

体験実習・学習・研修の受入(小中高大学生から社会人まで)



見学の受入(年間10件 200人)



東日本大震災被災地支援



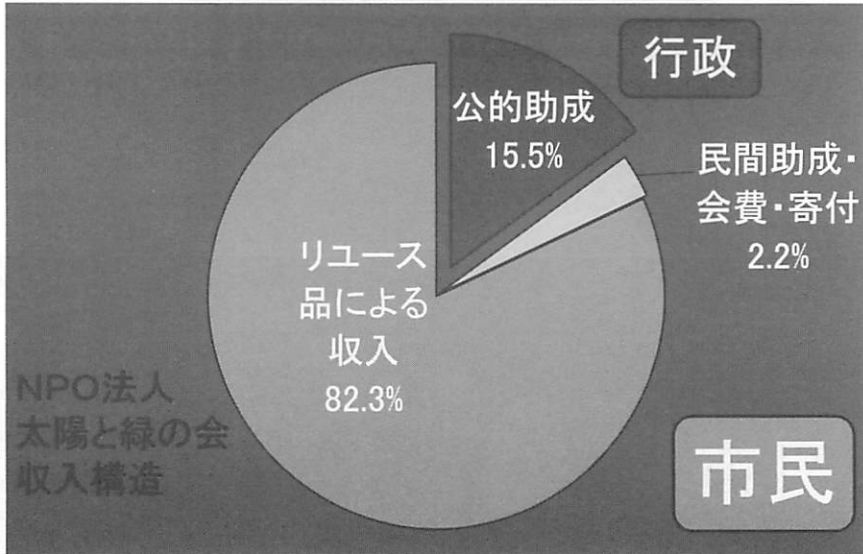
国際協力 (ケニア・ウガンダ、ルワンダ)



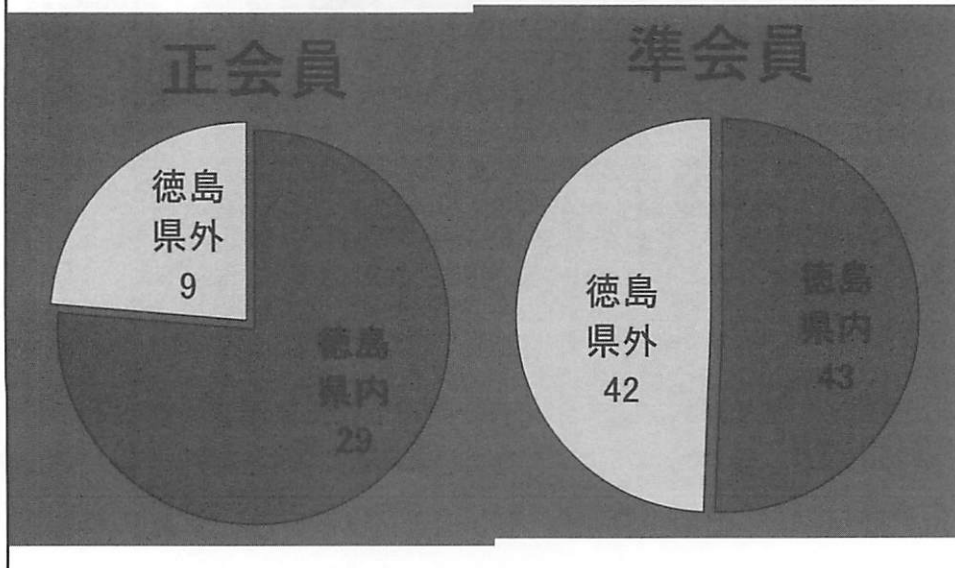
国際協力 (ベネズエラからの見学)



一般市民の皆様に支えられています



全国の皆様に支えられています



循環型社会を進めながら、そこに様々なハンディーを持ったメンバー達が破れ鍋に綴蓋的な作業を行い、ボランティアが関わり、子供から若者、中高年の方々や外国の方まで、ここを利用して下さることで「人も物も活かされる街造り」を32年間続けることが出来ました。現在20歳から66歳までの28名のハンディーを持ったメンバーたちと(時給100円から695円)、スタッフ11名(専任職員5名・契約パートスタッフ6名)とボランティアの方々が関わっています。



- 太陽と緑の会は、障害者地域共同作業所等(2箇所)と共同生活棟の運営、リユース・リサイクル活動(環境保全活動)、青少年育成・人権教育・社会教育活動、福祉事業団としての支援活動など、様々な側面を持つ、有機的、多面的な活動を行っています。「人も物も活かされる街づくり」が私たちのコンセプトです。

作業所の運営費(2箇所)など公的資金(税金)を、年間1000万円程頂いております。多いと思われる方がおられるかもしれません。

しかし、私たちの活動を一般的な障害者支援に換算すると約5000万円、ゴミ処理費としては約1900万円、支援事業が約100万円、青少年育成・人権教育・社会教育活動経費は、約600万円のコストが必要となります。お金の側面だけで見ると1000万円の公的資金で7600万円の活動を行っていることとなります。

一般市民の方々の支えを頂き、様々なハンディーを持ったメンバー達がそれなりに頑張り、いろいろな形でボランティアの方々のサポートがあり、それを行政が後押しすることで、ここでの活動が成り立っています。まだ日本では大変珍しい活動ですが、日本の次世代型ソーシャルアクションモデルになると考えています。

- この活動を始めるにあたってのイメージを言葉で表すと「様々なハンディーのあるメンバーたちが、地域の中で顔が見える立ち位置で、地域の方々にとっても必要な作業(活動)を通して、その人なりの足で立てるように、お互いに支えあいながら、地域の方々にも支えられ、それを行政も支援することで、地域で暮らしていけるようになれるか？そんな顔の見える日常活動の持続が、そこに暮らす老若男女にとっても住みやすく、豊かで、費用対効果も高く、持続可能な社会につながっていくのでは？」そんな言葉になります。これを読んでますます訳が分からなくなった方もおられるかもしれませんが、学校を卒業しても一般就労では対応しきれないハンディーあるメンバーたちに、特別な福祉の世界で対応したり、支援する側、される側といった枠をなるべくつけずに、様々なハンディーあるメンバーたちがそれぞれ補いながら、その人なりの作業(仕事)を持続可能な形でおこない、やれない部分をスタッフがすることで全体として活動が成り立つ在り方を模索しています。メンバーを支援することでスタッフの給料を成り立たせず、市民や行政の協力を得て、メンバーがやれる作業をそれぞれ行い、どうしてもやれないところをスタッフが行うことで全運営費の8割を捻出している、自立型次世代NPOモデルといってもいいでしょう。